

【 幹事会のページ 】

8月3日(水)にCATS2011会期中の首都大学東京において第4回幹事会を開催しました。10月に第47回熱測定討論会において、第38回通常総会が開かれます。ご都合で参加できない方は、本号綴じ込みの委任状をお送り下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

次期委員選挙

8月12日(金) [消印有効] に締め切りました委員選挙によって、2011・12年度の委員が選ばれました。選挙結果の詳細は、本号会告をご覧ください。

学会賞等について

学会賞等選考委員会による選考の結果、本年度の奨励賞は、神山匡先生(近畿大)、神崎亮先生(鹿児島大)に決定しました。詳細は本号会告をご覧ください。第47回熱測定討論会において、授賞式と受賞講演が行われる予定です。尚、本年度の学会賞の該当者はありませんでした。

事業報告

(1) 熱分析応用セミナー「有機・高分子の熱分析データから得られる情報」の第2回～第4回が5月24日(火)、6月21日(火)、7月26日(火)に首都大学東京の秋葉原サテライトキャンパスに於いて開催されました。参加者はそれぞれ19名、19名、29名でした。

(2) 第6回熱分析基礎講座「DSCとTG-DTAの講義と演習—信頼性の高い測定のために—」が、熱測定標準化作業グループにより6月28日(火)に首都大学東京の秋葉原サテライトキャンパスに於いて開催されました。参加者は9名でした。詳細は本号の報告記事をご覧ください。

(3) 66th Calorimetry Conference(CALCON2011)が本学会との共催で6月12日(日)～17日(金)にハワイのTurtle Bay Resortにおいて開催されました。参加者は約100名(日本から約30名)、発表は約80件でした。

(4) 第6回国際および第8回日中熱測定シンポジウム(CATS2011)が2011年8月1日(月)～4日(木)に首都大学東京南大沢キャンパスで開催されました。参加者は79名(海外17名)、発表は72件(特別講演2件)でした。CATS2011の記念論文集は、電子版として発行される予定です。

事業計画

第68回熱測定講習会は2012年2月に早稲田大学で開催さ

れる予定です。

熱測定討論会

(1) 第47回熱測定討論会は10月21日(金)～23日(日)に花屋実先生(群馬大)を実行委員長として桐生市民文化会館で開催されます。参加予約申込締切は9月30日(金)です。詳しくは、本号の会告または学会ウェブサイト内の本討論会ホームページをご覧ください。多数のご参加をよろしくお願い致します。

(2) 第48回熱測定討論会(2012年)は、古賀信吉先生(広島大)を実行委員長として、ICTAC2012の会期中に近畿大学で合同開催となります。

(3) 2014年は第50回熱測定討論会、2013年は学会創設40周年です。2014年の討論会では記念行事を計画しており、記念行事の準備委員会が発足する予定です。

本会主催の国際会議

15th International Congress on Thermal Analysis and Calorimetry (ICTAC15)は、2012年8月20日(月)～24日(木)に近畿大学で開催されます。現在、実行委員長の木村隆良先生(近畿大)を中心として、準備が進められています。

その他

(1) 幹事会では、講演会、ワークショップその他の学術的企画を随時募集しております。企画案をお持ちの場合は企画幹事までご連絡下さい。

(2) 学会では、新入会者を随時募集しております。周囲に熱測定・熱分析および関連分野に関心をお持ちの方がおられましたら、入会をお勧め下さい。入会申込書は学会ウェブサイトよりダウンロードできます。

年間予定表(本会主催行事のみ)

2011年	
10月21～23日	第47回熱測定討論会
10月21日	第1回幹事会(新旧合同)
10月22日	第1回委員会
10月22日	第38回通常総会
11月15日	「熱測定」Vol.38, No.5 発行予定
2012年	
1月	第2回幹事会
1月25日	「熱測定」Vol.39, No.1 発行予定

熱測定誌電子版の発行について

日本熱測定学会会長 首都大学東京 吉田 博久

本年の巻頭言 (Vol.38, No.1, p.1) でも触れましたが、日本学術会議が2010年8月に政府に対して「包括的学術誌コンソーシアム創設」を提言しました。この背景には、多くの学術誌が商業出版社の発行になり高騰した購読料のため、研究者の多くが必要な時に学術論文を読むことが困難になってきたことに対する危惧があります。コンソーシアムはこのような学術誌が抱える問題を解決する目的で設立され、日本学術会議、科学技術振興機構、日本学術振興会、国立情報学研究所、国立国会図書館が支援する組織となり、各学協会の参加が予定されています。実際のスタートは震災復興が優先されるため予定よりも遅れていますが、近い将来は学会の事務局や編集の機能を一元化したコンソーシアムが充足することになります。

最近では公的資金を用いた研究内容の公開の機運が高まり、大学図書館の機関リポジトリによる希望する誰もが学会誌掲載論文へのアクセス可能なオープンアクセスのシステムが構築されつつあります。まだ、商業出版社が著作権を持つ学術誌が多いためリポジトリに登録された論文数は少ないものの、将来的には多くの論文が登録されるようになると予想されています。

現段階ではコンソーシアムと機関リポジトリは独立した動きですが、両者の動きから見えてくる学術誌の将来の形態は、必要とする誰もが全ての論文にアクセス可能な学術誌です。オープンアクセスの目指すものは、論文著者と読者のニーズにも合致した方向です。既に多くの論文は別刷りから電子ファイルになり、印刷媒体が電子データ化されたことでオープンアクセスへの道が開かれています。

学会誌でありながら論文を掲載する「熱測定」は学術誌としての性格を併せ持ちます。「熱測定」は本年で38巻を迎え、第34巻までのすべての記事データは科学技術振興機構のアーカイブ (Journal @rchive) で読むことが可能です。現在、発行後1年経過するとすべての記事は学会ホームページからアクセスが可能になります。会員外の方も読むことができるので、実質的なオープンアクセスになっています。「熱測定」では最近では解説が多くなっていますが、以前は論文と解説が半々程度のバランスでした。「熱測定」には今でも論文が投稿されていますが、年5回の発行では

審査終了後掲載までに時間がかかることと、「熱測定」のサーキュレーションが低いことが問題になっています。

これらのデメリットを解消するために、幹事会では電子版会誌の発行を検討してきました。印刷版「熱測定」に加え電子版「熱測定」を発行し、印刷版には解説、電子版には論文や報告記事を掲載する予定です。電子版にするメリットを生かして論文は審査終了後2ヶ月以内の公開が可能になりますし、討論会や国際会議、講習会や講演会などの報告も開催終了後直ちに提供されることとなります。電子版「熱測定」をオープンアクセスにすることで、世界中どこからでも誰もが自由に読むことが可能になります。

電子版にする上で解決すべき問題は多くあります。会員サービスはどうなるか。電子版の編集費用や管理方法をどうするか。英語の校正をどうするか。幹事会と広報委員会では編集委員会と連携して、電子版発行に関するこれらの問題を検討しています。CATS2011 特集号を電子版で発行する予定です。この特集号の編集と運営作業を通じて、電子化への問題点を整理し費用を見積りたいと考えています。

電子版発行はコンソーシアムへの移行がスムーズになります。既に原稿のほとんどは電子データで入稿され、審査後に会誌フォーマットに編集されています。編集委員会では入稿の段階から会誌フォーマットでの入稿を検討しています。この方式で、著者が印刷時の論文や解説を視覚的に意識することができ、図やテーブルの文字が適当なサイズであるかどうか知ることができます。編集委員会では「熱測定」を来年度からA4版にしたいと考えています。A4版にすることで、情報量を減らすことなく年5回発行を年4回発行にして学会誌発行経費を減らしたいと考えています。今年度の総会で皆さんに方針をご理解いただきご賛同を得れば、平成24年からA4版への移行を実施したいと考えています。同時にHPの充実と電子版の発行を通じて、最新情報を会員の皆さんにお伝えする体制を整えていきます。

多くの通信機器が広く利用されるに伴って、学会誌のあり方も大きく変わる時に来ているでしょう。コンソーシアムが動き出すと、学会運営も大きく変わると予想しています。学会活動をより活発にする学会運営や事務局のあり方が問われるようになります。